

文化財修理の仕事

平成 23 年 8 月に完了した国宝開山堂修理の様子などを写真でご紹介します。

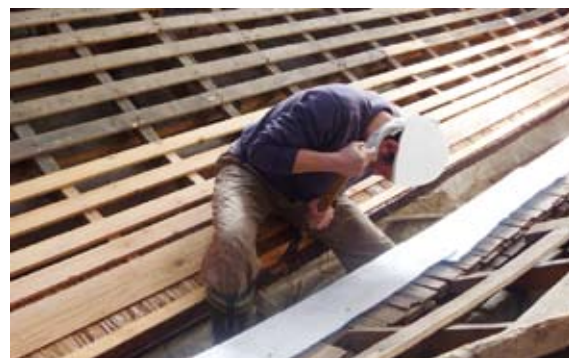
- ①昭堂（拝堂）屋根面に檜皮を葺く。
- ②樹上に登り、檜皮葺に使用する樹皮を剥く。
- ③軒付木口を手斧で切りそろえる。
- ④箱棟に銅板を巻く。
- ⑤昭堂（拝堂）地覆破損部を、最小限に補修する。
- ⑥原寸図（縮尺 1 分の 1）を描き、実際にかたちが納まるかどうか検討する。
- ⑦祠堂（奥の院）軒廻りを補修する。



①



②



③



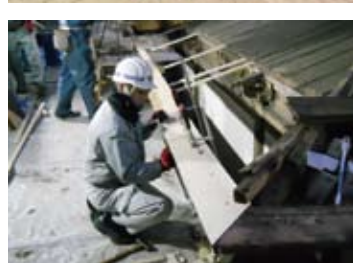
④



⑤



⑥



⑦



～保存修理設計監理者に聞く～

公益財団法人
文化財建造物保存技術協会
(文建協)

かとう まさひろ
加藤 雅大 さん

文建協では寺社・城郭・洋風建築・民家など文化財に指定された建物の修理を主に行っています。文化財の修理では傷んだ箇所を修理するだけでなく、修理に伴う歴史的な調査を行うことが一般の建物の新築や修理にみられない特徴だと思います。

修理に伴い解体すれば厳密に言うと全く同じ状態には戻らないことを念頭に、建物に残る墨書や加工痕・部材の古さなどから、先人たちの知恵と工夫・部材が

発している情報を汲み取り、いつの時代のものか、なぜそのような仕事をしたのかなど建立から現在までの履歴を丁寧に紐解いていき、建物の魅力を伝えていく調査をしています。

完成した建物の外側は見てもらえますが、外からではわからないことも修理に伴い確認できますので、修理に携わったものしかわからない部分を報告書や見学会などを通してきちんと伝えていくことが大切な仕事だと思っています。

建物の魅力をどれだけ汲み取り、ここまで残されてきたものをきちんと後世に伝えていくこと（引き継いでいくこと）が私たちの仕事ですが、建物と同時に建物に使われる材料の確保、実際に修理を行う職人さんや私たち技術者の育成も文化財を後世に伝えていくための大切な要素です。

文化庁委託事業・多治見市教育委員会事業

知られざる永保寺

Part2

～国宝観音堂修理 特別公開～

平成 23 年 10 月 15 日（土）16 日（日）

主催 多治見市教育委員会・文化財を学び伝える会

編集 多治見市文化財保護センター

〒507-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘 10-6-26

TEL(0572)25-8633 FAX(0572)24-5033

URL <http://www.city.tajimi.gifu.jp/bunkazai/>

協力：永保寺・保寿院・徳林院・統芳院・藏春寺・公益財団法人 文化財建造物保存技術協会・田中社寺（株）・亀山建設（株）・（株）中島工務店・東濃信用金庫・岐阜県東濃振興局・JR 東海・視聴覚協議会

国宝永保寺観音堂



観音堂 【国宝】
一重裳層付 入母屋造 檜皮葺
桁行3間 梁間3間 鎌倉時代末建立



観音堂内部
中央の須弥壇上に厨子が組まれ、聖
観世音菩薩坐像が納められている。



しょうかんぜおんぼさつざどう
聖観世音菩薩坐像

【岐阜県重要文化財】

像高 62.5cm 室町時代初期

よせぎづくり きよくがん
寄木造、玉眼、盛上彩色が施され、温
和で絵画的な様相が室町時代初期の特
徴を示している。



明治40年(1907)の観音堂修理の棟札

夢窓国師と名勝永保寺庭園



そぞうそうぎょうちようこく でんむそうこくしざぞう
塑造僧形彫刻(伝夢窓国師坐像)

【岐阜県重要文化財】

像高 85.5cm 室町時代初期

開山堂内に仏徳禅師坐像と並んで安置されている。優しい顔立ちやなで
肩の特徴から夢窓国師坐像と伝えられている。室町時代初期の作だが、
後世に彩色が塗り替えられており、衣文の模様にのみ当初のものが残る。



永保寺庭園 【国名勝】

右手に観音堂、観音堂前の臥龍
池(心字池)に無際橋が架か
る。観音堂奥の岩山は梵音巖と
呼ばれる。梵音巖の上には、霊
苑殿(六角堂)が建てられ、千
体地藏が祀られている。

けんじ
建治元年(1275)に伊勢国(三重県)で誕生した夢窓国師(～1351)は、臨濟
宗の高僧として、多くの弟子を育成し、臨濟宗の隆盛に大きく貢献しました。ま
た、しょうちゅう
正中2年(1325)には後醍醐天皇の勅を受け、京都・南禅寺住持となり、以
後も足利尊氏によって造営された天龍寺の開山となるなど、時の天皇や幕府など
に厚く遇されました。正中2年(1325)、鎌倉にいた夢窓国師は、南禅寺に住持
するため京都へ向かう途中、永保寺に立ち寄ったと記録されています。関連は分
かりませんが、平成16年の永保寺庫裡跡発掘調査では、「正中二年十二月」とい
う線刻が入ったやまぢやわん
山茶碗の鉢が出土しました。



「正中二年十二月」銘
山茶碗の鉢

夢窓国師は、禅宗寺院の造営を多く手がけた作庭家としても知られ、禅の修行の場として、庭園と
禅の思想とを深く結びつけたことで、日本の庭園史上大きな役割を果たしました。国師の手がけた庭
園は、永保寺のほか、京都のさいほうじ こけでら
西芳寺(苔寺)、天龍寺、ずいせんじ
鎌倉の瑞泉寺、山梨県のえりんじ
恵林寺などが残されて
います。夢想国師は創建から4年間永保寺に滞在しますが、庭園はその間に造られたもので、自然
の地形を巧みに利用し、観音堂と庭園とが一体となった景觀が生み出されています。観音堂正面に臥
りょうち しんじいけ むさいきょう
龍池(心字池)が構えられ、池には無際橋が渡されます。後方の岩はぼんのんがん
梵音巖と名付けられ、そこを落
ちる滝の水は、北西にある水源(シデコブシ群生地)から、水路によって引き込まれています。